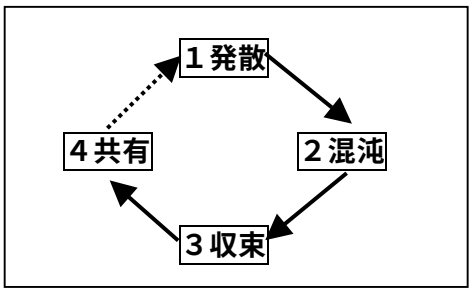
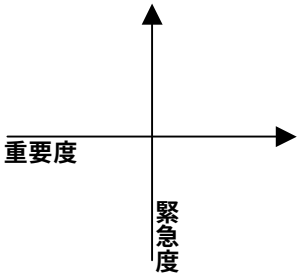
第５回　みえ若者就労支援ネットワーク会議
日時：2007 年 12 月 5 日（水）　19:00-21:00
場所：アスト津　みえ市民活動ボランティアセンター　ミーティングルームＡ・Ｂ

●はじめに　グループワークの進め方について確認（進行役・井上から）
・最初に議論している中味、前提の確認、共有を
・本年度に開催できる会議は今回を入れてあと３回
　→最終回は全体で、今年度全体のふり返りと次年度に向けての話し合いを全体で
・アイデアはたくさん出たが実現可能な具体的方策を！
　時間、空間は無限ではなく制約条件を意識する
・ワークショップの４つの循環サイクル（右図）
　全体の議論の方向性を「発散」から「収束」へ
・人、お金、物、情報、ノウハウ、専門性、ネットワーク
　など周りにある様々な経営リソースを充分に活用する



・出て来た結論にはさまざまな段階、レベルがあることを意識。方針でとどめず「方策」を！
　（例）交通違反の取締を強化する　→　方針（これだけではすぐに実行できない）
　　平成２０年度は飲酒運転の取り締まりを月間 30 箇所から 50 箇所にする　→　方策
　　坂本龍馬の船中八策＝「大政奉還」「議会政治」
　　「憲法制定」「条約改正」「海軍増強」・・・
・現在話している重点テーマについてグループ内で合意が
　取れているかどうか、重要な漏れがないかを確認
・重要度と緊急度を意識した座標空間に整理してみる（右図）
・グループ内の進行役を決めてスタート



【Ａ班】予防
（1）対象をしぼる
　・対象者を小/中/高生に定める
　　（予防を考えるうえで教育との関係が重要であるという前回までの結論から）
　　※ただし、予防策の実施結果に応じて柔軟に対象者を定め直す

（2）議論の収束
　・さまざまな意見が集まる場所を設定する
　　設定した場で、対象者自身が共感を覚えるものを選択する
　・「楽しさ」という要素
　　●楽しさ（1）…設定した“場”の「楽しさ」
　　●楽しさ（2）…働くことそのものの「楽しさ」
　　→「楽しさ」を通して対象者が自然と学べるようなプログラムづくりをする

(3)【方針】予防の“場”づくり

・“場”の目的

対象者自らの手で「働くこと」についての気づきを得てもらう

・“場”のイメージ

働くために必要なスキルを「自然と学び取る」ことのできる“場”

(4)(3)の「自然と学び取る」“場”のイメージについての確認

・「自然と学び取る」が示す意味

＝「多様な選択肢のなかから対象者自身が自発的に選び取り、身につける」

・「自然と学び取れ」る“場”とは？

「遊び」が取り入れられ、対象者が楽しんで学べるような“場”

・対象者に「自然と学び取」ってほしいものとは？

社会性（とりわけコミュニケーション能力）

(5)「遊び」の役割

・学びが促進される

・遊ぶことそのものよって社会性が自然と身につく

(6)【方策】“場”をつくるために

・“場”に関わる人

対象者、学校教師、地域の人、対象者にとって異世代/異年齢の人

・“場”をつくる人

ネットワーク会議のメンバー（予防班）、学校長および教師、関連するNPO

・学校へのアプローチ方法

総合学習の時間の有効な使い道として「“場”づくり」を提案する

・アプローチ後の取り組み」

●取り組みに関心をもつ学校の校長および教師に会議（予防部会）への参加を促す

●取り組みに関心をもつ学校からカリキュラム作りを開始し、前例をつくってもらう

●総合学習の時間を有効に使える旨のPRをし、教師に直接ファシリテートを行う

・“場”をつくるうえでの基本的な方針

あらかじめ作りこんだカリキュラムを使ってもらうのではなく

学校側に対して(3)【方針】を伝えたうえで、協働してつくりあげていく

以上

（文責：福島有香）

【Ｂ班】支援ネットワーク拡充

就職相談にきた方が、就労体験を経て、自立できるようネットワークの拡充を図る。
Ｂ班では、今回から相談のきっかけとなる窓口等に重点おいた「入口」と、
就労体験後の「出口」の２つに班を分け、支援ネットワークの拡充について話し合う。

〈Ｂ-１「入口」班〉

話し合ったテーマ

市町（自治体）や地域（入口となる団体、支援機関）との連携について

１．市町でも関係部局の連携を

・市町に若者就労支援について窓口となる担当者をきめてもらった
→その担当者が何をしていくのかがハッキリしていない
→この問題の性質上、保健福祉・教育・雇用などが連携しないと取り組みが進まない
→県でも関係部局が連携して取り組んでいるので市町でも関係部局の連携が必要
→市町にこちらから提案するなら、連携して何をしてもらうかハッキリさせる必要がある

２．連携して何をするかを明確に

（１）アウトリーチを県レベルから市町単位へ

・県単位で全域くまなくアウトリーチは難しい
→市町で支援対象者を把握するしくみをつくり、掘り起こす役割を担って欲しい

（２）市町の現場職員の声を聞く

・課題は何か、何で困っているかを明らかにしてひとつひとつクリアしていく

(文責：井上淳之典・最後の発表内容をもとに編集)

〈Ｂ-２「出口」班〉

１．『出口』とは何か？

（１）企業で働くことが出口か？
→企業で働くことだけが出口ではない。

（２）では、出口とは何か？
→就労体験が終了後、何かしらの金銭的な対価を得る状態では。
→自立できる状態。

２．『自立』の意識を共有する

どういった状態であれば『自立』したと言えるのかを共有する。

＜意見＞

・社会的な繋がりをもち、金銭的な対価を得る。
・国の視点から観れば、税金を納めることは必要。
・一定の収入を継続的に得られることが自立のスタートでは。
→それにあわせた場所をどう見つけていくのかも重要。

・一線を超える体験（成功体験）をする。
　　→成功体験は簡単なものではなく、ある程度高い目標を設置した方がいいのでは。
・全て一人でやる必要はない。

３．まとめ （暫定）
　自立とは、「本人が満足のいく一定の収入（金銭の対価）を、一定期間継続して得ること。」とする。税金、年金、保険を払うことができるのが理想。

（文責：川北　輝）

【Ｃ班】当事者サポート
議論内容の全体について
（１）前回の会議の欠席者に対し議事録をもとに前回の会議内容の確認
（２）議事テーマの設定
　前回議事録「３．今回の結論」後半部分と「４．今後の課題」について話し合う

１．勉強会に関して
（１）「方向性の明確化」について、そもそも「方向性」とは？
当事者が進む方向性（相談を受けて以後の支援先）の明確化か支援スタイルの方向性か？
→支援スタイルの方向性を明確にする
（２）「当事者」とはどういう人？
相談窓口等に来訪する者（ニート、ひきこもり状態から脱却したい意思表示がある者）
→家から出られない者に対しては家族向けの講演会、セミナー、ワークショップ等で対応する
→別テーマとして今後検討課題
（３）「魅力ある内容」よりも「適切な支援」を
・当事者に至る経緯が個別にかなり違い、何に魅力を感じるかを模索している状態である
→講演会講師やアドバイザーの人選、セミナー・ワークショップの開催形態にも波及する
→「適切な支援」であるかどうかを当事者支援の原点とすべき

２．当事者支援案
（１）伴走型支援
・ジョブトレーナーとの交流通じて仕事体験、支援ＮＰＯの職場体験
・人材派遣会社の協力（人材派遣会社のスタイルやルールに則った支援）を得る
　→「働くことの本質の理解」につなげる。
（２）カタリバ型支援
・ニート脱却の実体験や働く意味、なりたい自分像を語れる人たちの話を聞く
　→お茶会・食事会・サロンの設定→働く意味に気づく、意識啓発
（３）趣味・嗜好支援
・サロン等で行う趣味嗜好の集まりを多様化し、就労につながる下地をつくる
　→自らアクションを起こすような動機に

（４）働き方の多様性や可能性を提示する
・形にとらわれない働き方、雇用されない働き方などユニークな仕事や労働形態を紹介
→「こうあらねばならない」という固定観念の払拭、自分自身への自信の回復
（５）スクーリング
・「働く」ことをテーマとした教室の開催
ビジネスマナー、世の中のしくみ知る、自己実現についてなど基本的なもの
→自信がついた意欲のある当事者を対象
→企業やＮＰＯとの協働により開催できればより面白いものに

４．その他の検討事項
（１）窓口スタッフの充実
・各相談機関に訪れる当事者がインテーク面接（初回の面接）でつまずかないようにする
・最初に相談を受けた者の主観だけで支援先や方法が限定されない仕組みをつくる
・包括的かつ柔軟な姿勢で臨む
・相談対応者自身も勉強会等で研修、情報交換に努める
（２）インフォメーション、告知の充実
・積極的な広報…電話・メール等の活用で当事者に直接アプローチする
→コミュニケーションの第一段階になる
→個人情報の保護には充分配慮する
（３）イベント・セミナーの充実
・継続的かつ定期的に行う
→当事者が何時でもアクションを起こせるように支援する
→ローコストで運営できるように意識する

（文責：白尾豪紀）

●その他、全体で共有すべき報告、今後の予定、お知らせ等
・親向けセミナーの報告（岡嶋）
第１回　四日市（11/17）５４名　太田仁さん　講演＋グループワーク（コミュニケーション）
第２回　伊勢（11/25）　９名　浦田さん　講演＋ワークショップ（ＮＡＳＡゲーム）
・就労体験事業（浦田）
伊勢地域で５人スタートし四日市地域で４人、来週から津で開始。全員で１２名ほど
参加者募集中。説明会１２／２１にアスト津で。個別に面接し随時受け付け
・親向けセミナーの予定（井上・浦田）
第３回を平成 20 年 2 月 16 日（土）　13：30～16：30 名張市役所にて開催
名張だけのチラシを近日中に作成　ワークショップは目隠しゲームを予定
・ユースサポーター、アドバイザーについて（飯田）
各市町の担当者に推薦してもらっているが困っているところもあるようなので、相応しい方がみえれば皆さんからも紹介してほしい
・１２／９に自殺予防対策シンポジウム　参加者募集（岩樋）
・次回、次々回の日程は調整表をもとに近日中に決定し連絡　以上